

月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用・厚生労働省・国土交通省・㈱官公通信社・高齢者住宅新聞社・福祉新聞・日本経済新聞 他

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会
〒501-3246
関市緑ヶ丘2-5-78
TEL：0120-337-301
FAX：0575-24-5733

「私たちの姿を見て」 障害者GHの映画上映広がる 近隣反対についての問題



※出典：福祉新聞

精神障害者が暮らすグループホーム（GH）の開設反対運動をテーマとした記録映画『不安の正体』の上映会が首都圏で広がっている。映画制作に協力した社会福祉法人SKYかわさき（川崎市）の三橋良子理事長は「言葉で説明してもGHに反対する人にはなかなか伝わらない。GHで暮らす人の姿を見てもらうことが最も大切だ」と話す。

映画制作は、川崎市内の同法人のGH移転が2014年に反対されたことがきっかけ。近隣住民への説明会では精神障害者を不安視する声が増え、移転予定地には「大量入居絶対反対」の旗がズラリと並んだ。

法人は弁護団の力も借りて同年中に移転を果たしたものの、同様の反対運動は5年後、横浜市内の別法人のGH

でも発生した。

「このままではいけない」——。映画化の打診を受けた三橋理事長の話聞き、法人のGHで暮らしていた統合失調症のマリさん（60代）はそう考えて出演を決意した。

21年7月に完成した作品（65分）を観て号泣した。「私がGHの世話人さんと一緒に水餃子を作る場面が紹介された。病気をしても役に立てることが理解してもらえる。それがうれしい」。

映画はGHでの暮らしや入居者の語り、反対住民の声などを収め、「何が不安の原因か、本当に怖いのは何だろうか？」と問う。

その問い掛けに共感の輪が広がり、2月12日には東京都内での初の上映会を地元の当事者会が開催。撮影した飯田基晴監督らが上映後に対談した。その模様はYouTubeで公開されている。

上映会は、横浜市内の反対住民との対話を模索する立場で映画に登場した神奈川精神医療人権センター（藤井哲也代表）の呼び掛けで、今春、横浜市内各所で続く予定だ。

弊社はグループホームの開設を建設会社という立場でサポートする中で、近隣反対への活動も事業者様と共に取り組まさせていただきます。地域の事業者様と協力して、障害者の方のお住まいが足りないという社会問題を解決していきたいと考えております。